

<11月定例研究会の報告>

平成27年11月21日（土）、当研究所で定例研究会が行われました。

研究会のテーマは<文字学習「清音2文字の単語構成」>です。

午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行いました。

研究授業者：有村美恵子（つばき教育研究所スタッフ）
対象児：特別支援学級 小学2年生
テーマ：「文字学習」
学習内容：単語構成（清音2文字）の学習

I、指導経過

1、学習開始時の様子（平成26年10月～）

平成26年10月から週1回1時間の学習を開始した。初めての場所や、教材に対して不安が強く、落ち着かない様子がしばらく続いた。型はめなどの好きな教材は集中して、学習を行うことができた。学校では、“文字をなぞる学習”や、“ぬり絵”が好きで行っているとのことである。

このような様子から、児童が好きな学習を多く取り入れ、情緒を安定させ、学習を進めることにした。以下は終了した基礎学習である。

- （1）未測量の理解：大小、長短、多少、高低（はめ板、絵カード）
- （2）「同じ」の概念形成（具体物、絵カード）
- （3）空間概念の形成：方向、順序、上下、左右（具体物、絵カード）
- （4）点の定位、線の定位の学習

2、文字学習の様子（平成27年3月～平成27年11月現在まで）

- ・基礎学習がほぼ終了（左右の空間概念の学習、線書きの学習は継続中）し、学習にも慣れてきたので、文字の学習に進んだ。初めに仲間集めの学習を行い、名称を紹介してから単語構成の学習を行うようにした。
- ・単語構成は、単語構成板に絵カードを入れ、必要な文字カードを選び、順序正しく単語を構成する方法で行った。1文字の学習「て」、「め」、「は」、「き」が終了し、現在2文字の学習を行っている。
- ・2文字の学習は、「あし」、「まま」、「みみ」、「はし」、「ぱん」、「くち」（誤選択肢なし）が終了した。
- ・文字学習が進むにつれ、物には名前があることを理解するようになってきた。「て」「め」「は」「き」「まま」「ぱん」は、発音は不明瞭だが絵カードを見て、名称を言えるようになってきている。

今後更に文字学習を進めていくために、下記の点に留意し学習を行っている。

(1) 単語の選び方 (2文字)

- ①身の回りの単語で知っているもの ②発音しやすいもの ③1文字と2文字の音声が異なるもの(列音が異なるもの) ④1文字と2文字の形が似ていないもの

(2) 誤選択肢

現在、誤選択肢の文字は用いていない。学習が進んだ段階で、誤選択肢を用いていく。

(3) 読み方

- ㊦指導者の発声をよく聞き、口形をよく見て、子どもがまねて発声をする。
①いっしょに発声する。(子どもより半拍先に発声する。)
㊦の読み方でできるようになった単語は、①の読み方で行う。

(4) 書字

- ①なぞり書き(紙に書いたひらがなを、鉛筆でなぞり書きをする。)
②白抜き文字に、一画ずつ始点と終点を定位する。(できるようになったら、始点のみ定位する。)
③マス目の中に、一画ずつ始点と終点を定位する。(できるようになったら、始点のみ定位する。)
①ができるようになったら②③へと進めていく。

(5) その他

- ・課題の呈示、ことばかけはわかりやすく行う。
- ・できるだけ模範を多く示す。
- ・間違えたことが定着してしまうので、間違えさせないようにする。
- ・児童の行動が早くなる時は、ゆっくり関わるようにする。
- ・課題ができた時は、タイミングよくわかりやすくほめる。
- ・援助を行いながら、ことばかけでも行動できるようにしていく。

《文字学習で使用している教材》

①名称を覚える

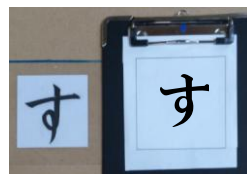


②単語をつづる





③書字

(透明板クリアファイル)



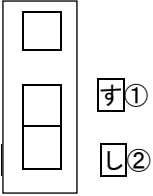
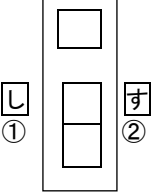
II、本時の指導

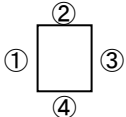
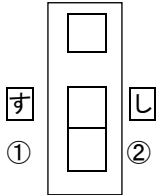
1、学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
(1) 文字の学習 ・ 2文字の単語構成 「すし」 	・ 絵カードを見て名称を言うことができる。 ・ 2文字の単語構成ができる。 ・ 構成した単語を読むことができる。 ・ 構成した単語を書くことができる。	・ 「すし」 半具体物 ・ 「すし」 絵カード ・ 2文字の単語構成板 ・ 文字 す し (5 cm × 5 cm) ・ 書字の用紙 (8 cm × 8 cm)
(2) 形を書く ・ 四角 □ ・ すべての線の始点と終点を定位する。 	・ 模範を見て、縦線を書くことができる。 ・ 模範を見て、横線を書くことができる。 ・ 四角の中を色鉛筆で塗ることができる。	・ ペン (オレンジ) ・ マス目のある用紙 (10 cm × 10 cm) ・ 鉛筆 ・ 色鉛筆

2、展開

学習項目	学習内容	学習活動	留意点
(1) 挨拶	・ はじめのあいさつ	・ 「はじめます。」と言う。	
(2) 文字の学習【すし】	《導入》 ・ 具体物の“すし”と絵カードの すし が同じであることを学習する。	・ 具体物の“すし”を指さし「すし」と言う。 ・ 絵カードの すし を指さして「すし」と言う。 ・ 具体物の“すし”と絵カードの すし を指さし「おなじ」と言う。	

<p><1 試行目></p>  <p><配列> 1対1対応</p> <p><読み方> 指導者の発声を聞き真似しと言う。</p> <p><書字> なぞり書き→ うつつ書き 一辺ずつ始点と終点を定位する。</p>	<p>《手順》</p> <p>①すし の絵カードを呈示し名称を言う。</p> <p>②絵カードを構成板に入れる。</p> <p>③構成板のマスを指さしながら、「す」「し」と発声する。</p> <p>④文字板を呈示し単語構成板に入れる。</p> <p>⑤構成した単語を指さしながら読む。</p> <p>⑥絵カードのすし と構成板のす、し が同じことを確認する。</p> <p>⑦構成した単語を書く。 す を書く。 し を書く。</p> <p>⑧書いた単語を読む。</p>	<p>・絵カードを見て「すし」と言う。</p> <p>・構成板に入れたすし の絵カードを見る。</p> <p>・す の入るマスを指さし「す」と言う。し の入るマスを指さし「し」と言う。</p> <p>・す の文字を取り「す」と言い、す が入るマス目に入れる。し の文字を取り「し」と言い、し が入るマス目に入れる。</p> <p>・文字を指さし「す」「し」と読む。</p> <p>・絵カードを指さし「これは、すし」、文字を指さしながら「これも」「す」「し」、「おなじ」と言う。</p> <p>・ことばかけを受けながらす の文字と一緒に書く。 ・ことばかけを受けながらし の文字と一緒に書く。</p> <p>・「すし」と読む。</p>	<p>・絵カードを呈示しても見ないようなら「見てね」と言い見るように促す。</p> <p>・よく見ている時「よく見ているね。」と褒める。</p> <p>・音の違いに気がつくように、1文字ずつゆっくり言うようにする。</p> <p>・文字を見ずに読む場合は、文字を指でなぞったり、裏返しにしたりして、文字に注目させた後、読むようにする。</p>
<p>(3) 文字の学習【すし】</p> <p><2 試行目></p>  <p><配列> 利き手側後出し</p> <p><読み方></p>	<p>《手順》</p> <p>1 試行目①～⑧と同じ</p>	<p>・1 試行目と同じ</p>	<p>・書字の時に終点で止まらない時は、「とまる」と言い手の動きを止めるように援助する。</p> <p>・手の動きを止められることを嫌がる場合は、終点に印をつける。</p>

<p>1 試行目と同じ <書字> なぞり書き⇒ うつし書き 1 辺ずつ始点のみ定位する。</p>			
<p>(4) 形を書く 四角 一辺ずつ始点と終点を定位する。</p> 	<p>《手順》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 辺ずつ書く動作をして模範を示す。 <p>① ↓ 縦を書く。 ② → 横を書く。 ③ ↓ 縦を書く。 ④ → 横を書く。 ⑤ 色をぬる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模範を見る。 ・ 縦を書く。 ・ 横を書く。 ・ 縦を書く。 ・ 横を書く。 ・ 色をぬる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書き順をよく見せる。 ・ 早く書いてしまう時は、「ゆっくりかくよ。」「よく見てね。」とことばかけをずる。
<p>(5) 文字の学習【すし】 <3 試行目></p>  <p><配列> 反利き手先出し</p> <p><読み方> 1 試行目と同じ</p> <p><書字> なぞり書き⇒ うつし書き 1 辺ずつ始点のみ定位する。</p>	<p>《手順》</p> <p>1 試行目①～⑧と同じ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 試行目と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反利き手先出しの呈示で、間違えた場合は、正答の文字を教える。
<p>(6) 挨拶</p>	<p>終わりの挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おわります。」と言う。 	

Ⅲ、研究協議

研究授業終了後、研究協議が行われました。特別支援学校の先生方、支援級の先生方、障害支援施設の職員の方など、たくさんの方の参加がありました。

初めに授業者から経過説明と授業の補足説明がありました。対象の児童は学習開始時は名称の理解もなく、ことばの表出もほとんどなかったということでしたが、文字学習に入り文字を使うことによって、物には名前があるということが理解できるようになりました。現在は絵カードを見て名称を言えるようになってきているということです。また感覚が過敏で体に触れられることを嫌がる為、書字の時の援助は手を添えて行うことが難しいという報告もありました。今後、もっとよく注目して見るようになるために、呈示の場所、呈示のタイミング、ことばかけ等を留意していきたいと授業者から説明がありました。

参加された方々からは以下のような感想を頂きました。

- 名称の理解がまだないお子さんが、文字学習を行い、名称が理解できるようになったことは大きな成長だと思います。文字学習に入る前の基礎学習がとても大切なのだとわかりました。
- 感覚が過敏な為、書字の時に手を添えて援助することができないということでしたが、教材など様々な点で工夫していることがわかりました。また、透明板（クリアファイル）を使用した書字の学習を児童が喜んで行なったのは、書いた文字も見やすく、何度でも書いて拭くことができるので、楽しく学習意欲を高めたのだと思いました。参考にしたいと思います。

最後に理事長からは、“文字を書く時の援助”と“見ることを促すこと”について、話がありました。

「文字がまだ一人で書けない場合、子どもの手を添えて、全て援助して一緒に書くことが大切です。一緒に書くことにより、手に字の形の動きを覚えさせ、正しく書けるようになるからです。過敏なお子さんでも少しずつ慣れるようにしていきましょう。」また、「“見る”ことを促すためには、「見て」とことばかけをして、子どもが見た時、「今、見てるね」とことばかけをすることが大切です。このことばかけが視機能の向上を促し、文字学習を進めることにつながります。」

参加された方々は、実際に学校で文字学習をされている先生方も多くいらっしゃり、活発な意見が交換されました。

次回の定例研究会は2月13日（土）です。たくさんの方々の参加をお待ちしています。